事業実施主体名 （協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績 被害金額 現状値	目標値	実績値	達成率	被害面積 現状値	目標値	実績値	達成率	事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
水上村鳥獣害防止対策協議会	水上村	R4～6	ニホンジカ イノシシ ニホンザル	侵入防止柵	金網柵の設置 L=850m	水上村鳥獣害防止対策協議会	R6	100%	ワイヤーメッシュ柵設置による、シカ・イノシシ等の鳥獣被害の減少 捕獲実績 【捕獲年度毎(4月～3月)】 ○令和4年度 シカ 793頭 イノシシ 300頭 ○令和5年度 シカ 708頭 イノシシ 381頭 サル 1頭 ○令和6年度 シカ 681頭 イノシシ 360頭	4,200 300 4,500	2,900 207 3,107	307 737 1,044	299.5% -469.9% 248.1%	19.48 0.35 19.83	13.4 0.24 13.64	0.32 0.76 1.08	315.1% -372.7% 302.9%	年度毎の捕獲頭数は、シカは若干の減少傾向であるが、イノシシは増加傾向である。再評価年度(令和6年度)においては被害金額が目標まで届かなかったものの、ニホンジカの被害面積減少については、目標値を上回った。 シカ被害については山林への被害が大多数を占めており、被害面積の把握状況により実績値が大きく変動してしまっている。 ○イノシシについては、近年、捕獲数が増えており、今まで被害がなかった地域からも被害報告や捕獲が上がっている。生息状況を確認し、計画的な捕獲や計画の見直しが必要となってくる。	・農作物被害の軽減のため、対象鳥獣の緊急捕獲に取り組まれている。 ・しかし、ニホンジカ、イノシシによる被害額は、現状値、目標値を上回っている。 ・被害面積については、ニホンジカについては、達成したが、イノシシについては、現状値、目標値を上回っている。 ・このため、引き続き、鳥獣被害防止対策に取り組んでいく必要がある。 （熊本県県南広域本部球磨地域振興局農業普及・振興課　参事　宮崎　徹）	被害金額・被害面積ともに、目標を達成しており、効果的に事業を活用し、被害軽減につなげることができていると考えられる。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や檀の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということを、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 水上村では稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。
水上村	水上村	R4～6	ニホンジカ イノシシ ニホンザル	緊急捕獲 緊急捕獲 緊急捕獲	シカ2,166頭 イノシシ1,011頭 サル1頭	水上村			ワイヤーメッシュ柵設置による、シカ・イノシシ等の鳥獣被害の減少 捕獲実績 【捕獲年度毎(4月～3月)】 ○令和4年度 シカ 793頭 イノシシ 300頭 ○令和5年度 シカ 708頭 イノシシ 381頭 サル 1頭 ○令和6年度 シカ 681頭 イノシシ 360頭	4,200 300 4,500	2,900 207 3,107	307 737 1,044	299.5% -469.9% 248.1%	19.48 0.35 19.83	13.4 0.24 13.64	0.32 0.76 1.08	315.1% -372.7% 302.9%	年度毎の捕獲頭数は、シカは若干の減少傾向であるが、イノシシは増加傾向である。再評価年度(令和6年度)においては被害金額が目標まで届かなかったものの、ニホンジカの被害面積減少については、目標値を上回った。 シカ被害については山林への被害が大多数を占めており、被害面積の把握状況により実績値が大きく変動してしまっている。 イノシシについては、近年、捕獲数が増えており、今まで被害がなかった地域からも被害報告や捕獲が上がっている。生息状況を確認し、計画的な捕獲や計画の見直しが必要となってくる。	・農作物被害の軽減のため、対象鳥獣の緊急捕獲に取り組まれている。 ・しかし、ニホンジカ、イノシシによる被害額は、現状値、目標値を上回っている。 ・被害面積については、ニホンジカについては、達成したが、イノシシについては、現状値、目標値を上回っている。 ・このため、引き続き、鳥獣被害防止対策に取り組んでいく必要がある。 （熊本県県南広域本部球磨地域振興局農業普及・振興課　参事　宮崎　徹）	被害金額・被害面積ともに、目標を達成しており、効果的に事業を活用し、被害軽減につなげることができていると考えられる。 本県では、捕獲対策だけではなく、地域ぐるみで行う被害防除や生息環境整備を組み合わせた総合的な対策を推進している。現状でも、総合的な対策を意識しながら、対応いただいているが、ほ場周辺の環境整備や檀の管理等について、より対策を徹底していただきたい。 防護柵を設置さえすれば被害は減るという考えは間違いだということを、防護柵を設置する前に、集落内で情報共有し、地域ぐるみで取り組む体制を強化する必要がある。 県内には、地域ぐるみで対策に取組み、被害ほぼ0を実現した地域もあるので、参考にしていただきたい。 水上村では稲の被害が大きい。ヒコバエが冬場の鳥獣の貴重な栄養源となっていることから、「ヒコバエ対策」も検討し、鳥獣を引き寄せない環境づくりに取り組んでいただきたい。また、防護柵の導入にあたっては、適切な設置方法の普及などソフト面の対策を強化していく必要がある。 捕獲対策についても、間違った捕獲を行うと、逆に頭数を増やす結果となりうるので、被害対策としての捕獲技術を習得する場を設けるなど、新規狩猟者等に対するフォローを行っていただきたい。